

g 多胎児の歯科矯正学的考察

神奈川歯科大学

鈴木祥井

日本人の不正咬合の大半は乳歯齲蝕に起因するといわれる。最近は減少傾向にあるとはいえ、乳歯齲蝕の水はまだまだ治まったとは思われない。

五つ子は5卵性であることが判明している。ということは、遺伝因子が1卵性のように100%共通なわけではなく、普通の兄弟姉妹が同時に同一環境で成長していることになる。つまり、不正咬合の原因のうち、環境因子の1つである後天的因子が共通になる可能性がある。それらの中でかなり大きな要因である乳歯齲蝕を徹底的に予防できれば、彼らに不正咬合が発現するおそれは大幅に減少するであろうし、それでもなお発現したとすれば、他の因子の追求に寄与する資料となるだろう。

幸いにして彼らには現在齲蝕が全くない。通園中の幼稚園年長組の中では、齲蝕がないのはもう1人、歯科医の子供を含めて6人しかいないという。これは驚異的なことで、1人1人の口腔内をブラッシングしてやるという母親の口腔衛生への関心の高さのなせるわざと思われ、従来の指導が正しかったことを裏付ける。

しかし、彼らも学齢期に近づき、もはや母親の手を患わずに自分で正しく歯口清掃をおこなう必要がでてきた。しかも、永久歯の萌出が開始された。齲蝕の発生率は歯の萌出後2年以内がもっとも高く、その後は比較的安定するといわれる。これは、萌出したての歯は未熟であるが、その後歯の表面から種々の無機質がとりこまれ、強度を増すためであるとされている。したがって、萌出開始期（6歳から12歳までの約6年間）における歯口清掃の徹底化は、将来の健康な口腔環境の維持と全身の正常な発育の促進のために大きな意味をもつものと思われる。

このような見地から、神奈川歯科大学歯科矯正学教室では、5人の歯科衛生士を個別につけて、刷掃指導——口腔内のチェック、汚れている部位の確認、歯ブラシおよびフロスシルクの使用訓練など——をおこない、同時に保護者にも歯口清掃の意義を力説した。

第1回の指導では、5人とも歯垢の付着はかなり少ないことがわかった。ただ、歯ブラシの使い方には個体差があり、5人ともある技術水準を維持させるためには、定期的な訓連と相互の競争心の利用などが必要

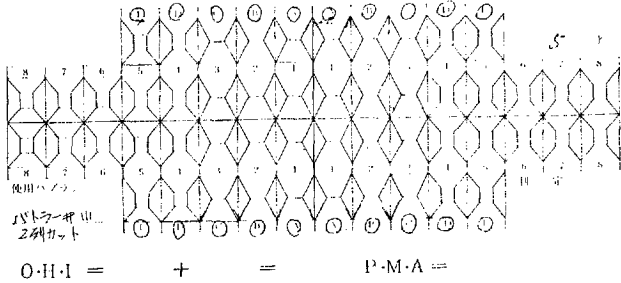
と思われる。また、このような物理的な齲蝕予防法のほかに、萌出直後の永久歯へのフッ化物塗布などの化学的齲蝕予防措置も併せて採用していくつもりである。

なお、連続的な口腔模型のチェックからは、やや長頭型に属する頭蓋形態を考慮すると、将来の前歯部の叢正（いわゆる乱抗歯）の出現が予想される。したがって、不正咬合予防の観点からは、前記の齲蝕予防のみならず、顎の大きさと歯幅との不調和の解消も検討課題に含めるべきであろう。

山下 福太郎

56年 9月 2日

5才



ウ蝕は見られず、口腔内衛生状態は良いと思われる。一度磨いてもらった後に、染め出してみると、全体的にうっすらピンク色になり III は歯頸部に汚れが見られた。舌側乳臼歯部を磨く時に舌でハブラシを押しだしてしまったり、ハブラシをかんだりして磨けなかった。唇面スクラッピングまあまあでした。フロスは上手でなくほとんど出来なかった。次回にもう一度練習の必要あり。

D・H 金

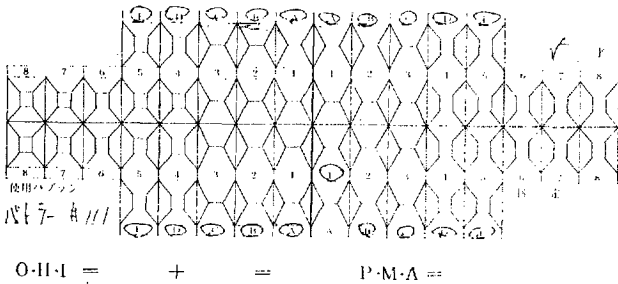
好きな食べ物はパンです、お肉も好き

山下 寿子

56年 9月 2日

5才

バトラー #111



II に歯石がついている（舌側）歯ブラシの使い方は上手な方だと思う。唇側、頬側は描円法、舌側スクラッピングを教えた。フロスはなかなか良い、前歯部しか教えてないので、なれてから臼歯部を教えようと思う。早くなれてくれるとよいのですが。

山下 洋平

56年 9月 2日

5才

* 下顎 E|E の遠心部と、下顎前歯 BA|AB 舌側に少し汚れアリ

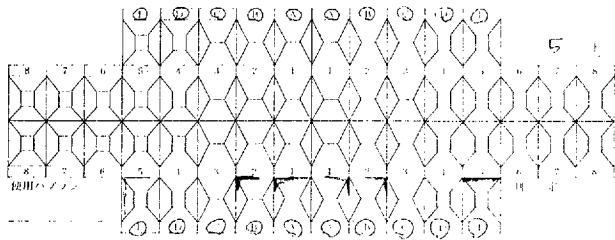
* スクラップ法を教える

1日3回（おやつを入れると4回）磨くことを約束

フロス（サークル法）

Brushing and フロス よくできる

D・H 鈴



山 下 妙 子

56 年 9 月 2 日

5 才

バトラー # 111

うしろ 2 列を抜く

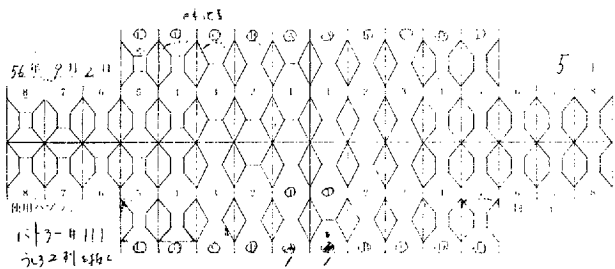
色赤沈着

Rolling 法でみがいている

全類、スクラッピング法で、頬唇側20回と、
下舌側臼歯20回、咬合面と上下舌側歯10回ず
つみがく（上下右の犬歯ふきんは眩をはって
みがくこととおしえた）

上顎、舌側はともうまくハブラシがあたる
フロス……サークル法で、上下前歯のみ教え
た（左手を口蓋に入れてフロスできる）なか
なか上手である

D・H原



山 下 智 子

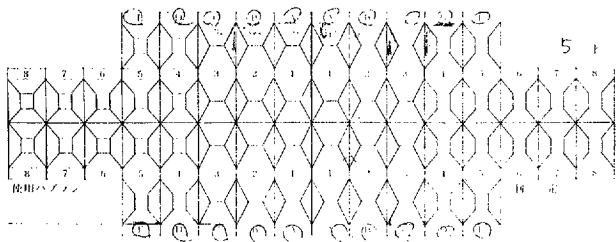
56 年 9 月 2 日

5 才

萌出中

上顎前歯部が全体的に汚れているので描円
法指導，それによって簡単におちる。その他
臼歯部，歯頸部が汚れている。描円法，スク
ラップ法もすぐに歯牙から歯ブラシがはずれ
てしまう。フロスは上顎の方が得意の様であ
る。すぐおとなしい。ブラシの動きは良い
が位置的關係がむずかしい様です。

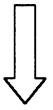
1日3回を約束。





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



日本人の不正咬合の大半は乳歯う蝕に起因するといわれる。最近は減少傾向にあるとはいえ、乳歯う蝕の水はまだまだ治まったとは思われない。

五つ子は5卵性であることが判明している。ということは、遺伝因子が1卵性のように100%共通なわけではなく、普通の兄弟姉妹が同時に同一環境で成長していることになる。つまり、不正咬合の原因のうち、環境因子の1つである後天的因子が共通になる可能性がある。それらの中でかなり大きな要因である乳歯う蝕を徹底的に予防できれば、彼らに不正咬合が発現するおそれは大幅に減少するであろうし、それでもなお発現したとすれば、他の因子の追求に寄与する資料となる。